

## 第4回岡谷新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年11月5日（火）

午後6時から午後7時30分

会場：おかや総合福祉センター 2階 大会議室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 県教育委員会挨拶

#### 3 新構成員自己紹介

#### 4 会議事項

(1) 「第3回岡谷新校再編実施計画懇話会」まとめ

(2) ここまで出された意見のまとめ

(3) グループに分かれての意見交換

(4) 意見の共有

#### 5 その他

次回の予定

【日時】 令和7年1月27日（月） 午後6時から午後7時30分

【場所】 おかや総合福祉センター コンベンションホール

【内容】 学びのイメージ策定に向けての意見交換

#### 6 閉 会

岡谷新校（仮称）再編実施計画懇話会 構成員名簿

○は新規構成員

	区分	氏名	所属等	意見交換グループ
1	自治体	早出 一真	岡谷市長	1
2		宮坂 享	岡谷市教育長	座長
3	産業界	木下 敏彦	岡谷商工会議所 副会頭	4
4		山田 昌義	(有) ニシキ精機 代表取締役社長	1
5	学識 経験者	広瀬 啓雄	公立諏訪東京理科大学 副学長	御欠席
6		岩間 英明	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科 教授	1
7		坪谷 ニュウエル 郁子	東京インターナショナルスクール 理事長	4
8	地域	遠藤 美千子	(株) エー・トゥー・ゼット 代表取締役社長	2
9		太田 博久	(株) 太田屋 代表取締役社長	3
10		笠原 新太郎	笠原書店 代表取締役社長	3
11		竹花 顕宏	諏訪地域振興局 局長	4
12	同窓会	山本 美保子	岡谷東高等学校同窓会 会長	1
13		林 秀徳	岡谷南高等学校同窓会 副会長	3
14	P T A	田口 あゆみ	岡谷東高等学校 P T A 会長	3
15		共田 武生	岡谷南高等学校 P T A 会長	2
16		笠原 康弘	諏訪 P T A 連合会 代表 (岡谷市 P T A 連合会長)	御欠席
17	小中学校 関係者	小口 貴一郎	諏訪校長会 代表 (川岸小学校 校長)	御欠席
18		山田 典史	諏訪校長会 代表 (岡谷東部中学校 校長)	2
		(代理：若林 和仁)	諏訪校長会 代表 (下諏訪社中学校 校長)	
19		瀬志本 進	花田養護学校 校長	3
20	再編 対象校	○ 齋藤 礼央	岡谷東高等学校 生徒代表	1
21		○ 大坪 千紗	岡谷東高等学校 生徒代表	4
22		○ 松原 康恭	岡谷南高等学校 生徒代表	御欠席
23		○ 外山 あかり	岡谷南高等学校 生徒代表	2
24		倉坪 崇之	岡谷東高等学校 校長	2
25		小宮山 健司	岡谷東高等学校 教職員	3
26		藤澤 雅道	岡谷南高等学校 校長	4
27		森澤 太平	岡谷南高等学校 教職員	1

事務局

岡谷東高等学校		岡谷南高等学校		高校再編推進室	
奥原 貴彦	教頭・副事務局長	藤澤 幹彦	教頭・事務局長	原 多恵子	主幹指導主事
小宮山 健司		森澤 太平		有坂 清明	主任指導主事 (担当)
中村 龍馬		松本 雄二		土橋 邦彦	主任指導主事 (副担当)
西澤 久美子		奥村 達朗			
		今井 靖			

### 第3回 岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年9月30日(月) 午後6時～午後7時30分		
場所	おかや総合福祉センター(諏訪湖ハイツ) コンベンションホール		
出席 (敬称略)	早出一真、宮坂 享、木下 敏彦、遠藤 美千子、太田 博久、笠原 新太郎、竹花 顕宏、山本 美保子、林 秀徳、田口 あゆみ、共田 武生、笠原 康弘、小口 貴一郎、山田 典史、藤森 心愛、荒木 俊亮、水野 日向、高田 香望、倉坪 崇之、小宮山 健司、藤澤 雅道、森澤 太平(以上22名)		
欠席 (敬称略)	山田 昌義、広瀬 啓雄、岩間 英明、坪谷 ニュウエル 郁子、瀬志本 進 (以上5名)	傍聴	5名
事務局	岡谷南高校	藤澤教頭(事務局長)、森澤教諭、松本教諭、奥村教諭、今井教諭	
	岡谷東高校	奥原教頭(副事務局長)、小宮山教諭、中村教諭、西澤教諭	
	県教育委員会	原主幹指導主事、土橋主任指導主事、有坂主任指導主事	
当日資料	次第、構成員名簿、第2回懇話会まとめ(案)、講師紹介、講演資料、意見交換資料、ワークシート		

#### 会議事項

- (1) 第2回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 講演「地域と連携した探究学習で魅力的な高校をつくる」 株式会社オーナー 菅野 定行 先生
- (3) 質疑応答、意見交換(グループワーク)

#### 構成員から出された主な質問・意見(要旨)

##### 会議事項について

- (1) 第2回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ  
資料1～2ページについて事務局(県教委)から説明。質問、意見なし。
- (2) 講演「地域と連携した探究学習で魅力的な高校をつくる」  
資料4～16ページをもとに、株式会社オーナー ディレクター 菅野 定行 先生より講演

##### 【講演要旨】

- 新しい学習指導要領の狙いは知識技能の習得に加えて、思考力、判断力、表現力、学ぶ意欲、課題に向き合おうという態度も育てたいということ。
- 「総合的な探究の時間」で求められるのは、自分のあり方、生き方を見据えた学びにすること。
- 石巻西高校の「街ライブラリ」「街ミッション」「街クエスト」で地域の事業所や、被災後に石巻に入ってきた若手の人材に協力を得た。
- 地域と連携した探究学習に取り組んでから学校評価の数値が上昇した。
- 進学実績が顕著に上がったわけではないが、国公立を目指す生徒で探究の力を携えて総合型選抜で挑戦する生徒は増えた。また不登校が激減し、中途退学者がほぼゼロになった。
- 学校と地域の関係についての事例紹介  
新庄・最上ジモト大学  
地元を深く理解し、地域の大人たちと積極的に対話し協働。約20のプログラム。  
気仙沼マイプロジェクト・アワード  
気仙沼地区の高校生によるプロジェクト発表会。審査委員長が市長、副委員長が教育長。
- 探究については正直苦戦している学校の方が多い。特に学力中上位層の学校で受験学力の向上と探究活動の両方を求めるのは負担が大きいという声を聞く。
- 自分と社会を重ねたところには、自分軸のある社会参画、マイプロジェクトがある。自分と学校とを繋ぐところには、自分の関心や自分の生き方と連動させた本気の学びがある。学校と社会を繋ぐところには、社会課題を意識した学習活動がある。この3つが重なるところにあるのが、総合的な探究の時間。「総探」がうまく回ればこの3つの円がうまく機能的に動いていく。

○大学入試で一般選抜の割合が減って総合型選抜が増えていくと、「探究」の力を身につけた生徒、いろいろな大学に進学するための方策、選択肢をたくさん持つことになる。

【質疑応答】 →菅野先生回答

○日本の若者は自己肯定的な意識が非常に低く、就きたい職業が思い浮かばないという状態だと「自ら学びたい。」とか「こういう探究をしたい。」というところまでいかないのではないか。これを解決するにはどうしたらよいか。

→テーマ設定の前に仲間作りや、グループ作り、対話の練習、コミュニケーショントレーニングといった学びの土壌づくりが必要。これが探究だけでなく教科の学びにもつながる。

○石巻西高校の探究の時間はどのくらいか。課題解決型インターンシップの課題はどのようなものか。

→年間で35時間だがインターンシップも含めると50から60時間になる。授業だけでは物足りない生徒も一部おり、「放課後探究部」という部活動を作った。

震災を学習する施設でのインターンシップの課題は「県外から視察に来る高校生に対して、どのようにプレゼンするか」である。大人も答えのない問いに日々向き合っているという社会の厳しさを知る機会だった。その時に課題解決のための指導を教科の学びと関連させて教員が指導できればとてもよい。

○連携コーディネーターはどんな方がやっていたのか。その組織作りで苦労したことはあったか。

→当時30代の石巻には縁もゆかりもない方で、震災ボランティアでやってきたことがきっかけで定住していた方。教員免許等はないが教育に関心のある方。週に2、3回は学校に来てもらったこともあり学校の先生方も生徒もコーディネーターがいることが自然な状態だった。地域でもその方のもとに協力する事業者さんがたくさんあり、各方面との調整も進めてくれた。外部との連携やアポイントメントが苦手な教員が多い中、大変助かった。

(3) 意見交換（グループワーク）で出された主な意見・感想

- 特色づくりが必要。少子化が進む中、新しい発想が必要。
- 自由度のある、子どもたちが行きたい学校が大切。探究以外にもうひとつ特色がほしい。
- 「地域とのつながりを重視」がキーワードではないか。
- 普通科の高校は特徴を出しにくいのではないか。方向性をどうするかが心配。
- 地域のことを教えられる先生、教育が必要。
- 学びの土壌づくりが大切。
- 日頃の教育活動（授業等）の方が探究に近い取組があると思う。それが探究につながっていないのもったいない。
- 岡谷は地域との取組を行う土壌があると思う。動き出すことができればやり方次第で高校と地域の良い連携ができるのではないか。
- 探究はテーマ設定がしっかりできれば自分の現在や将来のためになる活動と感じた、探究に対する見方・考え方が変わった。
- 多忙な教員がどのように探究に取り組むかが課題。
- 新校では課題解決に迎える人材を育成したい。
- アイデンティティーを知る、どんな大人になりたいか目標が持てる教育を目指したい。
- 主体性を育成する学校にしたい。

## その他

### 【次回】

日時：令和6年11月5日（火） 午後6時～午後7時30分  
会場：おかや総合福祉センター（諏訪湖ハイツ） 大会議室  
内容：目指す学校像と育てたい生徒像についての意見交換

## 岡谷新校 再編実施基本計画に係る学校像について（これまでに出了た意見）

	地域協議会からの意見・提案	再編・整備計画【三次】	第3回懇話会までに出了た意見
<b>育てたい生徒像</b>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の強みを生かして、地元を、長野を、日本を、世界をより良くして平和にすることに貢献できる人材。</li> <li>○ 大学や地域と連携した探究的な学びにより、人と人の中で自ら考え行動できる、地域から愛され、頼りにされる人物。</li> <li>○ 地域を愛し、地域に誇りを持ち、いずれ地元に戻ってきて活躍する生徒を育てたい。地元の良いところをしっかりと伝えることが大切。</li> <li>○ 何か一つ目標を持って頑張った経験のある生徒。</li> </ul>
<b>目指す学校像</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の子どもたちはもとより、探究的な学びや分野最先端の学びが可能な、他地域の子どもたちにとっても魅力的な学校</li> <li>○ 諏訪地域の歴史・伝統についての学び、地域や世界の課題解決を考える学び、文化芸術分野やスポーツ分野など幅広い学びが可能な学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践的な英語力を共通のベースに探究する単位制高校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が自分のやりたいことを選べ、それぞれの道に進んでいけるような高校。</li> <li>○ 地域の学校として、地域との結びつきが強く、多様なニーズに応えることのできる学校。</li> <li>○ 進学や就職など生徒の希望に沿う科目選択や先生方の厚いサポート体制など多様性のある新校にしてもらいたい。</li> <li>○ 生徒の可能性を伸ばすことができる学校、入学後に様々な面でその生徒に合った教育が受けられ、潜在力を大きく伸ばすことができる学校。</li> <li>○ 地元や他地域からも選ばれる、偏差値による輪切りで選択されることのない特色ある普通科高校。</li> </ul>
<b>学び・カリキュラム</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の希望がかなえられる多様なニーズに対応した学び</li> <li>○ 諏訪地域の歴史や伝統文化、地域の産業、豊富な観光資源等の地域の魅力についての学び</li> <li>○ これからの諏訪地域を支える医療、福祉、行政、教育等の担い手の育成につながる学び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の多様な進路希望や興味関心に応じた科目選択や入学年度を超えた学びあいなどを可能にする単位制を導入</li> <li>○ 地域の特色あるスポーツや地域活動にも積極的に取り組むことができるカリキュラム</li> <li>○ 実践的な英語力を共通のベースに、地域の課題をグローバルな視点で探究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生のうちから、主権者として、地域づくり、社会づくりに関わられるような教育内容にしてほしい。</li> <li>○ 一人ひとりの生徒の個性を引き出し、それを進路選択に繋げていくような教育内容を考えてほしい。</li> <li>○ 「グローバルな視点、ローカルな学び」に魅力を感じる。</li> <li>○ 両校の良さを活かしながら、英語や情報について深く学べるような学校。</li> <li>○ 探究以外にもうひとつ特色がほしい。</li> </ul>
<b>地域連携・シーム</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域との共学共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校の出口も意識しつつ、生徒の自主性を最大限大事にした学校。そのために、社会や地域の小中学校との連携という視点も大事にできるとよい。</li> <li>○ 新校にも岡谷東高校で組織されているPTSに地域を加えてPTSC&lt;Parent（保護者） Teacher（先生） Student（生徒） Community（地域）&gt;とし、学校運営に参画する組織を作りたい。</li> <li>○ 地域資源を用いて地域と連携して学び、それを自分の武器にして進路を実現できるとよい。</li> </ul>
<b>学びの環境・その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的な学びによって自己の可能性を広げる</li> <li>○ 多くの仲間たちと切磋琢磨できる規模の大きな学校</li> <li>○ 留学や国際交流を通じて国際感覚を養う学びの機会をより一層取り入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 留学生の積極的受け入れなどによる国際感覚を醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある子どもが共に学ぶ、インクルーシブな学校。</li> <li>○ 学びの土壌づくりが大切。</li> <li>○ 地元で定着するようにするために、地域のことを教えられる先生・教育が必要。</li> <li>○ 教育移住という観点からも考えてみたらどうか。</li> </ul>

## グループに分かれての意見交換

### <本日のテーマ>

- 1 「岡谷新校でつけたい力、つけてほしい力はなにか」(約 25 分)
- 2 「テーマ 1 で考えた力を実現するために、どのような学校にしたらよいか」(約 25 分)

### ○ 参考資料

- ・ 第 3 回岡谷新校再編実施計画懇話会のまとめ (1 ~ 2 ページ)
- ・ ここまでの意見のまとめ (3 ページ)

### 【メモ】

## 意見の共有

### 【各グループからの意見】

#### ○1グループ

<岡谷新校でつけたいカ、つけてほしいカ>

<目指す学校像>

#### ○2グループ

<岡谷新校でつけたいカ、つけてほしいカ>

<目指す学校像>

#### ○3グループ

<岡谷新校でつけたいカ、つけてほしいカ>

<目指す学校像>

#### ○4グループ

<岡谷新校でつけたいカ、つけてほしいカ>

<目指す学校像>

【ご自分の考えのまとめ】 \*次回以降の意見交換のために